

連載企画 SDGs取り組み事例紹介

マーク建設株式会社

～すべての人にとってより良い、持続可能な未来を支えるSDGs活動を目指して～



【会社概要】

1995年（平成7年）6月、管路更生工事に特化した専門業者として、福岡県北九州市に設立。現在は、新設、改築工事、管路更生工事と土木工事全般に事業を拡大し、公共、民間を問わずインフラ整備の中核を担っている。

また、土木工事だけでなく、DX領域として、中小企業のHP制作、ITツールの導入等の支援業務を行っており、業態の拡大を進め、九州エリアで必要とされる会社を目指した活動を推進している。

【話し手】

マーク建設株式会社 代表取締役 藤木伸次



マーク建設のロゴマーク



マーク君

—SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

弊社は、下水道管等のライフラインの維持管理としての改築更新が重要課題となる将来が来るとの確

信があり、九州の管路更生事業が普及するより前の1995年（平成7年）6月、管路更生工事に特化した専門業者として、福岡県北九州市で創業しました。当初は、管路更生工事（写真1、2）を基軸にスター



写真1



写真2

トをしましたが、管路更生工事以外を含む工事も多くあり、管路更生工事の一部分だけでなく、発注者等からの要望もあり、下水道工事等の土木工事（写真3）にも取り組むようになり、現在は新設、改築工事、管路更生工事と幅広く工事を行うようになりました。

また、弊社の認知拡大のため、人材確保のためホームページ（<https://mark-homepage.com/>、以下、HPという）を立ち上げています。初めころは制作を外部の専門業者に依頼をしていましたが、管路更生工事のイメージアップのため、弊社の更なる認知度アップには、弊社の想いを込めたHPを自由に制作したいと考え、HP技術者を採用し、HPで色々な活動等を紹介していたところ、HPが同業他社から評価を頂き、各社のHP制作（WEBデザイン編集部：<https://mark-homepage.com/maken/>）を頼まれるようになりました。現在は、更に進んで、2023年（令和5年）には中小企業庁からIT導入支援化事業者としての認可を取得し、中小企業・小規模事業者のITツールの導入により生産性の向上に貢献するパートナーとして取り組んでおり、業態の拡大を進めています（<https://mark-homepage.com/it/>）。

新しいものの取り入れを積極的に進めており、弊社では、子育て支援、地域の見守り、品質・環境マネジメントシステムの活用を以前より熱心に取り組んでおり、自然な流れでSDGsを取り入れることができました。現在は事業活動の中でSDGsを意識し、



写真3

活動に定義付けを行いながら取り組みを進めています。そもそも下水道は生活になくてはならない生活基盤であり、且つ、管路更生工事はSDGsに沿った事業と認識をしており、管路更生事業を通じて地元
の北九州、九州全域に貢献をしていると考えています。

地元である北九州市は、SDGsの達成に向けて優れた取組みを推進する環境先進都市として、国から「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されています。「北九州市SDGs未来都市計画」に基づき、SDGsの達成に向けた機運を高めるための活動に「北九州市SDGsクラブ」があり、弊社も理念に賛同し、登録（<https://kitaq-sdgs.com/notice/7653.html>）を行っています（写真4）。

SDGsの理念を取り入れることで、会社として事業活動の意義づけ、社員の動機付けにもなること、また採用面でも、働くためにもSDGsへの貢献に繋がる社会的意義が求められていますので、一層重要なものとなってきています。

——管路更生を通じてSDGsに貢献していることについて教えてください。

弊社はもともと管路更生工事が広く一般的に認識される前から、管路更生工事が将来ライフラインの維持管理、改築更新に必要な技術として発展をするとの思いから、管路更生工事の専門企業として創業をしました。

現在では管路更生工事の必要性、重要性が社会に認知され、ライフラインの改築更新の手段として管路更生が一般的、当たり前の中になってきました。そもそも下水道の社会的な必要性は高く、現在の人々にとって衛生的で快適な生活を送るために、洗い物、洗濯、風呂、トイレ等を使うことは全く意識をしないくらい当たり前となっています。この当たりの生活基盤を支え、多く人々が、持続的な健康生活を送るために必要な管路更生工事はSDGsがそのまま当てはまると考えており、弊社の事業自体がSDGsそのものであると考えています。

社員にはこのことに誇りを持って欲しいと考えて

います。

人材面でいいますと、管路更生工事は現場が同じものが一つとなく、現場条件に応じた多種多様な施工対応力が求められます。高品質、かつ多種多様な現場に対応する社員の育成、例えば公的な資格取得の推進や工事を効率的に進められるため複数の管路更生工法に対応できる能力を身に付けてもらうことで、社員のやりがい、働き甲斐、モチベーションを高めていくことに繋がっています。

また弊社は、ダイバーシティー経営を積極的に進めており、IT支援関係もあり、現在20%強の女性が活躍してくれています。女性が働きやすい環境整備を行っていましたが、結果的に男性も働きやすい環境が整備されてきており、社員の意識も高まってきていると考えています。

これからも、地元貢献する企業でありたい、持続的に経営を続けたいと思いながら、試行錯誤もありますが、業務範囲を拡大し、持続する社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

—SDGsの取り組み全般について概説してください。

SDGsを事業基盤のベースとして、地元貢献する企業（会社と要統一）として、色々な活動に取り組んでいます。

地元貢献するものとしては、北九州市における「ながら見守り宣言企業」に参画し、営業活動、工事活動を通じ、常に高い防犯意識を持ち、地域の子供、女性や高齢者等を見守る活動を継続して行っています。

また、福岡県の「子育て応援宣言企業」に参画しています。社員の職業経験、キャリアを中断することなく、子育てをしながら働き続けることができる会社を目指して、社員の仕事と子育て両立支援の取り組みを行っています。当初は経営者としての戸惑いもありましたが、強制的に休みを取得させる等の取り組みを行っていくうちに、育児休暇を取らないのは“悪”と社員の意識も変わってきて、現在の育児休暇の取得率は100%となっています。

社員が本気で、安心して、長く働きたいと思える



写真4

企業として、働きやすい環境を整備することを目指した取り組みを継続して進めています。

同様に、環境に貢献するものとしては、工事等で発生した材料、プラスチック製容器等の徹底した分別、再利用を図るとともに、電動工具は、蓄電池式（リチウムイオン電池等）のものを使用し、原則ソーラー発電で蓄電池への充電による環境負荷低減を実施しています。また、事業所の電気使用量を検針票等で把握・記録し、使用量の削減を図る活動や車両の空気圧等の適宜点検し、適正に保つことで燃費の向上を図る等の工夫を意識して行っています。

また、DX面の活用については、会議もITツールを活用し、例えば管路、マンホールの中にWi-Fi通信環境を導入し、タブレットで現場を映しながら自治体等の発注者と現場情報を共有することで協議を行っています（写真5）。問題点の共有も効率的になりますし、従来であれば写真を撮影し、資料にまとめてから、役所を訪問して発注者と協議をしていましたが、ITツールの活用で移動する時間、資料作成の時間の削減、追加で質問があれば、また工事現場に戻って確認をして、写真を撮影し、資料にまとめるなどの繰り返しになる無駄の発生を抑制につながっていると思います。結果的には社員の業務の効率化、

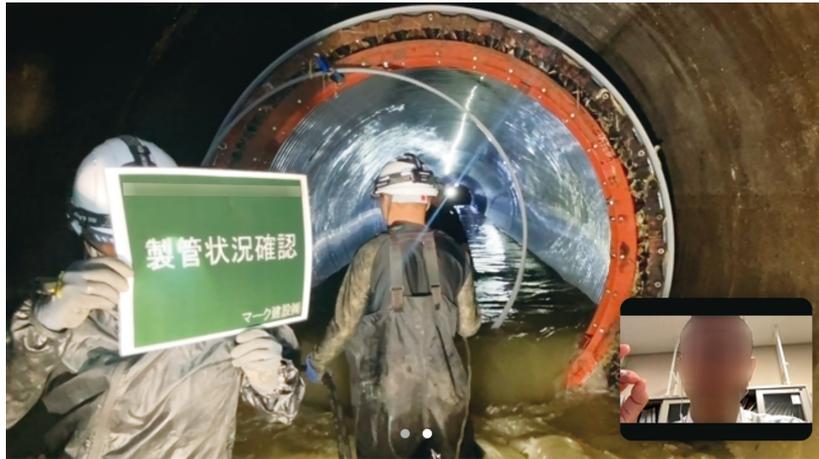


写真5

負荷低減にも繋がっています。

また、検査も現地の状況を発注者と相互で共有することで、確認カ所もスムーズに行えます。将来的には完工検査にも使えるようにしていきたいと考えています。

さらに、ITをうまく活用することで、無駄の削減に繋がります。社員もやってみると、あれこれとアイデアを出してきて、改善のネタがどんどん湧いて出てきます。今後も環境整備、IT化による拡充を進めてまいります。

活動は地道なものばかりですが、お金の節約、削減が目的ではなく、社会資源の使用量の削減、環境負荷低減に繋がる活動の一つずつ進めることで、SDGsに貢献していると考えています。

——貴社が目指すSDGs2030はどんな姿ですか？

引き続き、ライフラインである下水道管をはじめとした、管路更生事業、インフラ整備等を通じて地域社会が抱える社会的、経済的な課題の解決を目指すとともに、SDGsにおける17の目標の達成に向け

た活動を進め、貢献を目指します。

また人材の観点で、すぐには出来ませんが、将来的なものとして、女性だけ、海外からの人材だけで管路更生工事の班を作るのが私の夢です。それを成し遂げるためには、管路更生工事の技術の改良・開発、働きやすい環境整備を一層進める必要があります。技術開発も必要ですが、成し遂げることで、誰でも安心して働ける会社とすることを目指しています。社員が働きたい、働き続けたいと思える環境整備も進めてまいります。

社員も厳しい工事環境の中で働いてくれており、社員の思いにも応えるためにも、待遇改善等の活動にも取り組んでいきたいと考えています。

また私自身は、保護司の活動も取り組んでおり、人との繋がりを大事にし、人の喜びが自分のためになる、自分を変えるキッカケになるとの信念を持っています。管の更生、人の更生を通じて、街とともに生きる実感、日々社会との繋がりを感じながら、社会貢献活動を継続的に取り組みます。

